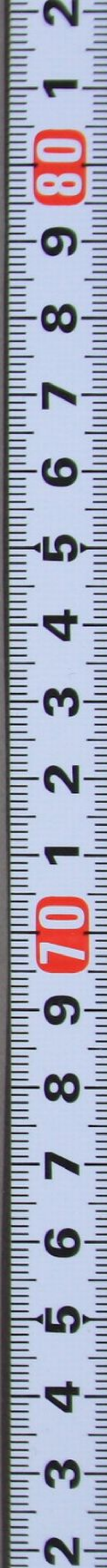
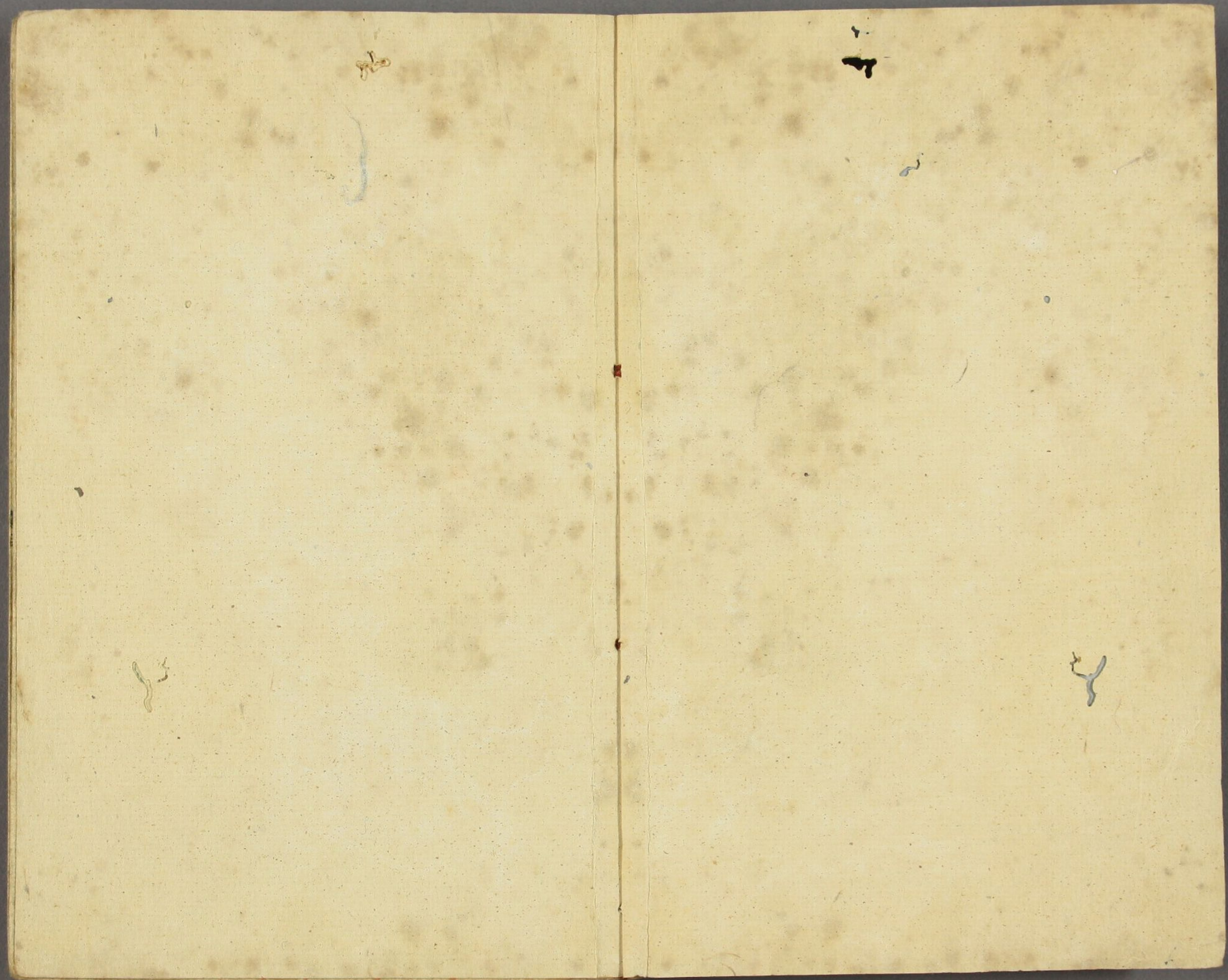


美也

十
十
十
十
十



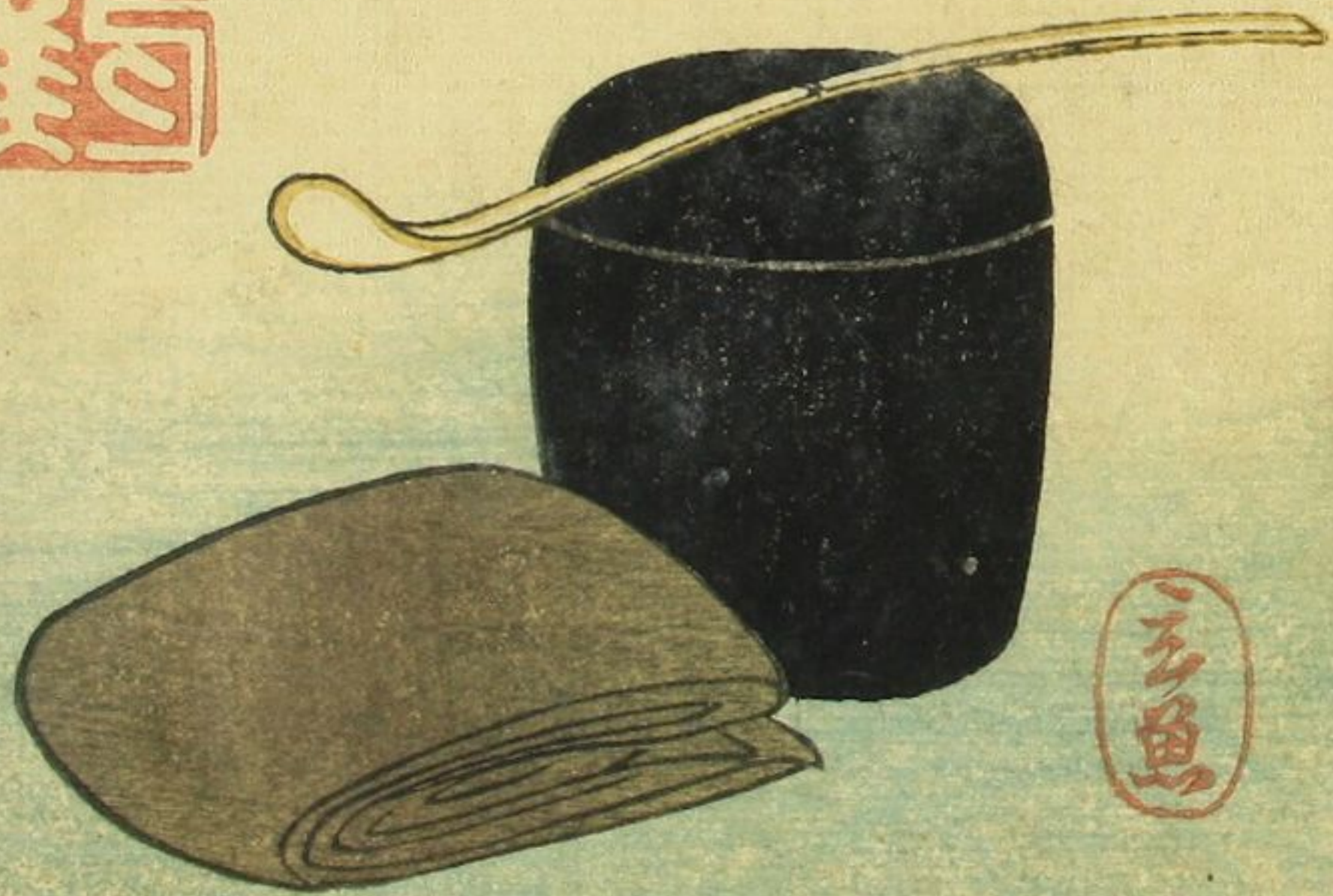


根源之丸

丸

種秀作十三編

國貞画



丸

喜鵲
内

此丸の中
紫ふくさ

根乞
美
星
瑛奇



十三編上

作題曲多國

柳舟作

根源實紫
第十四編

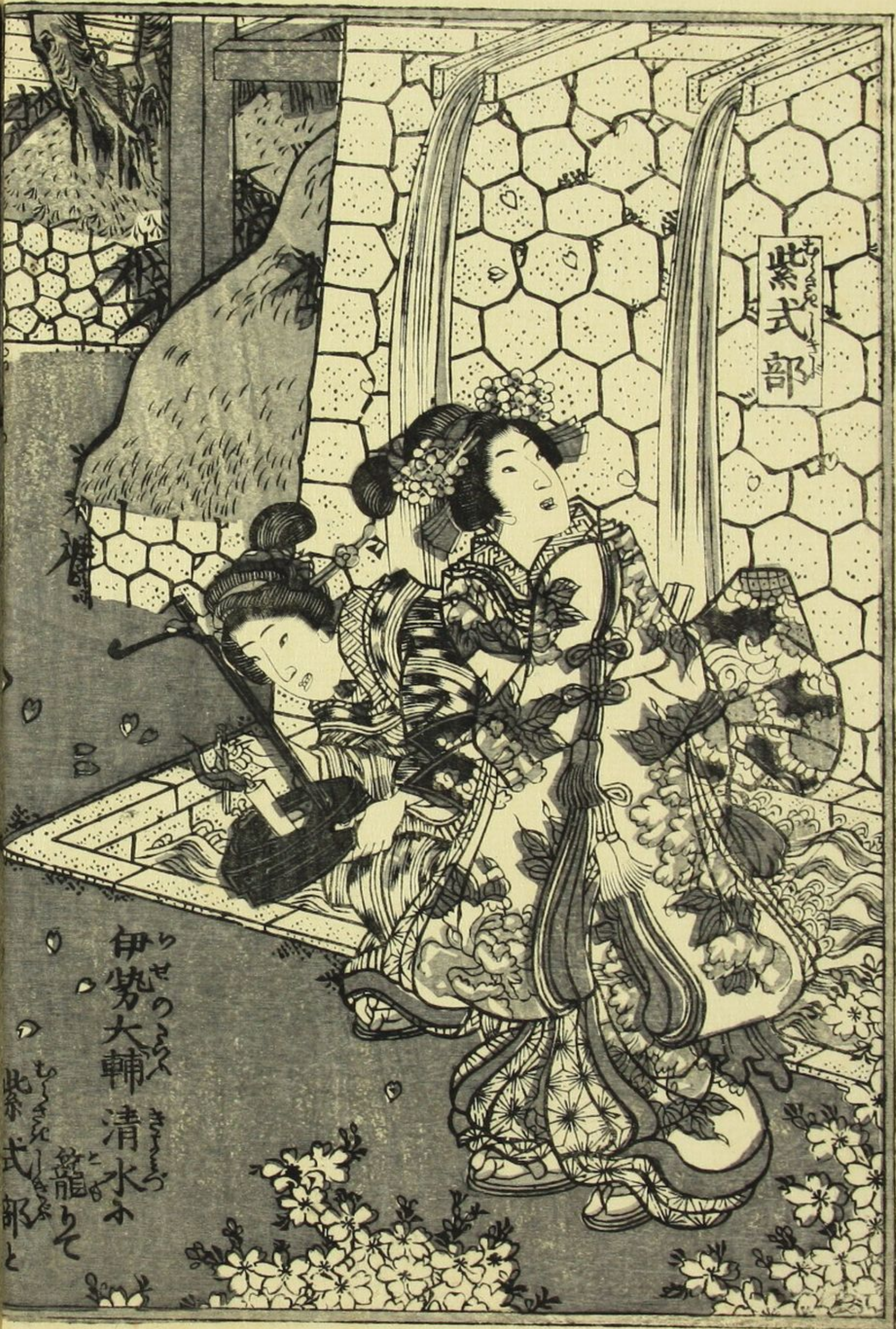
喜雀堂梓

國真画

辛酉



辰野



伊勢大輔清水きみずの
紫式部むらさきしきぶと



伊勢物いせものの第七
十巻の大淀の濱おほふしに
てふみくりに心をなすか
つねども是皆心のなむむ由あり皆
岸かきと称ふ山やまも此こゝあり不在あらずと惟規のぶみの云いけと六む足あしへらち傾かたむき
有理あり本國ほんくにの山やま多く立山たちやま富山とみやま礪波らば並なら三さん室津むろつ山やま黒坂くろさか山やま石動いしどう山やまを数かず
あまこゝろと皆山みなやまとやいふとしる傍かたわらより戸波とらが差出さしだるたあまを知らぬ霍公くわくこう
鳥伊頭とりいとう故こゝろの山やまを鳴ならすんはかすはと云いはれぬ故こゝろの山やまを鳴ならすんはかすは
山やまとやいふと皆山みなやまとやいふとしる傍かたわらより戸波とらが差出さしだるたあまを知らぬ霍公くわくこう

歌よみ
うらそ
う



信孝松浦の
 旅館小家信を
 得る

紫式部

あひ
 えんと
 ちんちん
 まつ

あひ
 えんと
 まつ

あひ
 えんと
 まつ

作しや

あひの神の

あひ

あひ

あひの神を

あひの神を

あひの

あひ

あひ

実紫廿三

三



鳥居

鳥居



鳥居

鳥居

鳥居



十編 二面次 妙計と噂く 重桐又お伏さんととると何杉が忠義の
 りのさう二面次只管婚と促し反く方便の裏とがれ噂小醜婦を
 娶るの一段話説かいつく阿童とてめて残毒とさう含むの一端 十編の
 阿童が浴室あつて虚井の守袋とるよりそのおれ雙言する夏とあて
 反問苦郊の計あつて秋風を欺くの二段譚で最巧みめり
 十二編 秋風虚井毒手小りつて終お非命お死より殺生石の
 一奇談つづく龍太郎の侍おりつて此間お二面次八重桐らごう人
 とも説く引つたお違ふ當年の内お出板あまごう

三の巻
 十編の二面次
 妙計と噂く
 重桐又お伏
 さんととると
 何杉が忠義の
 りのさう二面
 次只管婚と促
 し反く方便の
 裏とがれ噂小
 醜婦を娶るの
 一段話説かいつ
 く阿童とてめて
 残毒とさう含
 むの一端 十編
 の阿童が浴室
 あつて虚井の
 守袋とるより
 そのおれ雙言
 する夏とあて
 反問苦郊の計
 あつて秋風を
 欺くの二段譚
 で最巧みめり
 十二編 秋風
 虚井毒手小り
 つて終お非命
 お死より殺生
 石の一奇談つ
 づく龍太郎の
 侍おりつて此
 間お二面次八
 重桐らごう人
 とも説く引つ
 たお違ふ當年
 の内お出板あ
 まごう

西國

奇談

春水補綴

國貞画

十編 二面次 妙計と噂く 重桐又お伏さんととると何杉が忠義の
 りのさう二面次只管婚と促し反く方便の裏とがれ噂小醜婦を
 娶るの一段話説かいつく阿童とてめて残毒とさう含むの一端 十編の
 阿童が浴室あつて虚井の守袋とるよりそのおれ雙言する夏とあて
 反問苦郊の計あつて秋風を欺くの二段譚で最巧みめり
 十二編 秋風虚井毒手小りつて終お非命お死より殺生石の
 一奇談つづく龍太郎の侍おりつて此間お二面次八重桐らごう人
 とも説く引つたお違ふ當年の内お出板あまごう

根源實紫新刻概畧

作者 柳亭種秀

十三編 惟規が北海の危難鳴高他を謀て自かつ天の綱船撥手兒釣出す花園
 の遊宴お式部が画賛へ呪詛の種村心の火性お浮氣の水性者妙術は醜婦忽ち
 美人お化つ十四編 小鮮の食嗜おつて水即吟おれ八幡の宇佐使宣孝が幸府のかり寐
 夢の中おる幻の譚お始り現の中おる夢中の奇遇の半はて十五編 心筑紫の夢覺ておの
 信お渡と灌ぐ袖の淺花管絃講香炉節お死に宿留本おかり飲われお悲し式部竟の談お終る

種秀作

田夏魚

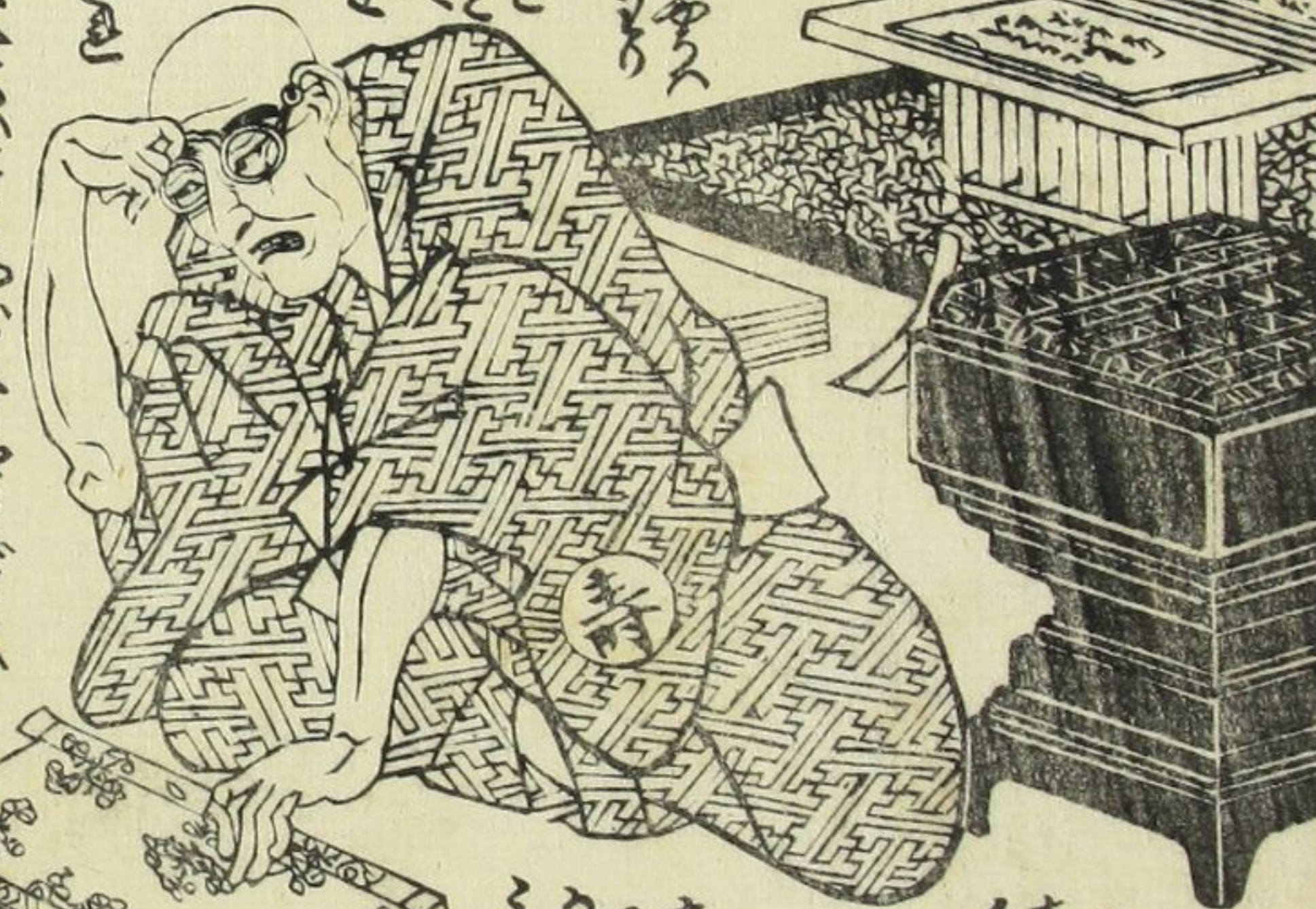
喜雀堂

壽梓

十三編下



Handwritten text in the top right section of the right page, written in a cursive style.



Handwritten text in the bottom right section of the right page, continuing the narrative.

Handwritten text in the top left section of the left page, written in a cursive style.



Handwritten text in the bottom left section of the left page, continuing the narrative.

安政七年申新年鐫目録

根源實紫

十三編
十四編
十五編

柳亭種秀作
一壽齋國貞画

娘庭訓金鶏

四編
五編

同
同
画作

總次郎琴聲美人録

十六編
十七編
十八編

山東京山作
歌川國郷画

花兄弟陸奥名所

二編

柳亭種秀作
同
画

新增補西國奇談

九編
十編
十一編

為永春水作
歌川國貞画

地木繪草紙團扇問屋

芝神明前
三島町

佐野屋喜兵衛板

実業

梅蝶梅画柳亭作



根
美
子
咲

什題曲豆因



振源実紫家第十四輯之懐望あり
 種彦著述梅増博園有魚子正夜
 申和秋刊於芝新物志書後



柳亭種彦
 印

紫式部 鯉魚や喫夫ふえられ石清水の歌作しといふ雑談の新井白蛾の
 牛馬同に載たり。御伽草紙乃猿源氏小此話や和泉式部のゆきと守。
 免に角あもい。そらつ。の秀句假字も錯後人の偽作論まれば。
 鯛の異名は紫とへ東山殿時代は上臈御名のりと云本あもあしりて。
 此真紫色あも何うね。若ハ彼話より知しあも。序心にかるも無益
 心癖あり。式部へ人の前めても一の字も知らぬ顔し。博覧振も大嫌
 あら。日本紀の御局と綽号や呼源氏や作て地獄に墮しと今物語に
 妄語も餘勝き。賢女故嫉をて譏り。浮名あも。高名人小今古
 貝願肩の引付も必何り。好とも互あも。評さぬ程の境界ハのと口惜し。
 いつも拙とといも。計愚作も讀人何うハ愚作者の歡喜け上やさうらふべき

辛酉新春

二世

柳亭種彦



紫十四



観音寺坊官健部人

健部慶足妾菊社

実地十四



左衛門尉官琴

三十一日



藤原宣孝再出

下市杖手兒



佛供養
迎講式
來留春首辰
秋錦院

此式部

關鶏野極彦

來正月ヨリ

三十一日





喜朝
梓弓

柳亭
秋川
國貞
貞重

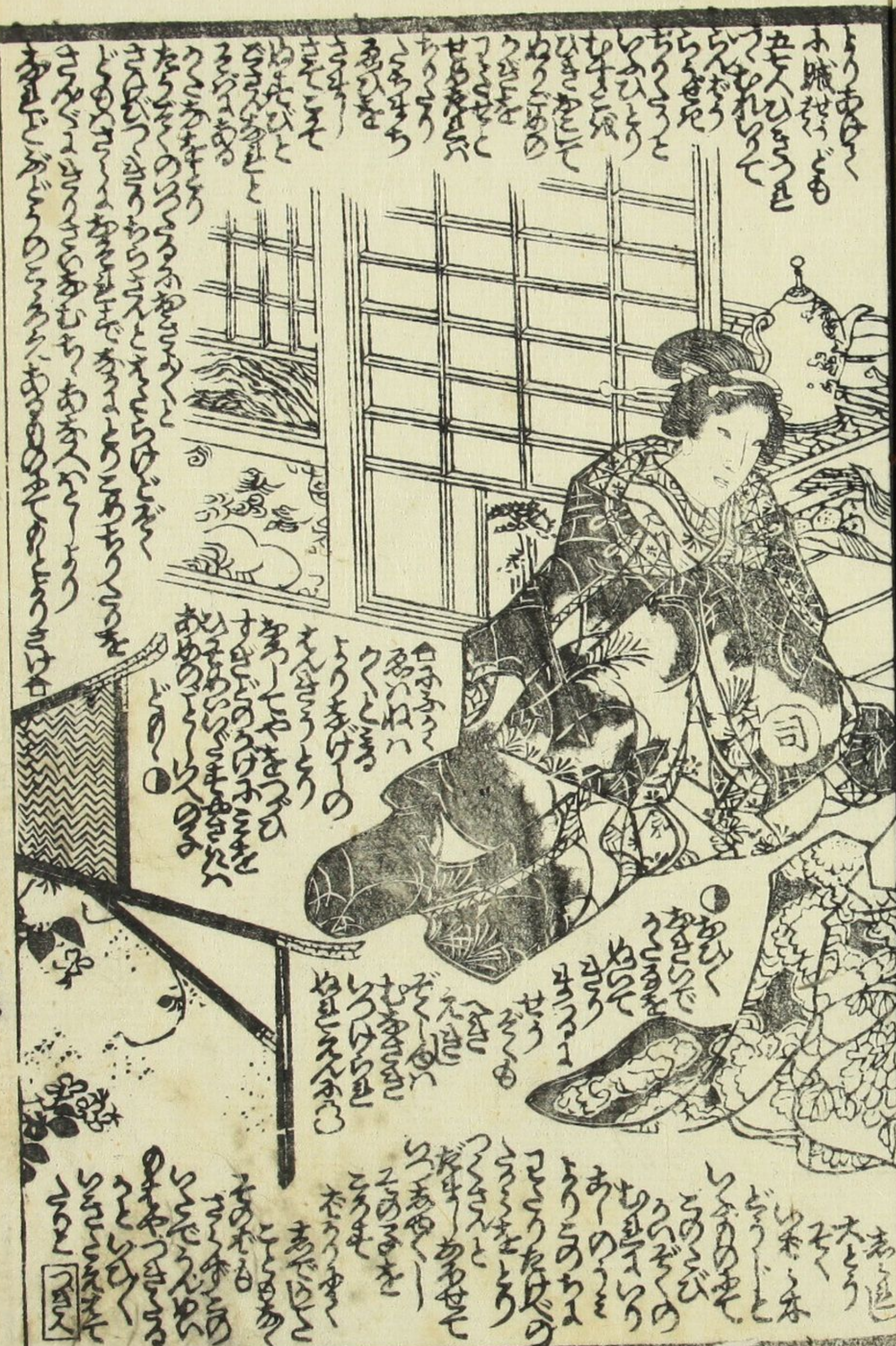
下編四十



ついでと申すに、ついでに
 ついでに申すに、ついでに
 ついでに申すに、ついでに
 ついでに申すに、ついでに
 ついでに申すに、ついでに
 ついでに申すに、ついでに
 ついでに申すに、ついでに
 ついでに申すに、ついでに



ついでに申すに、ついでに
 ついでに申すに、ついでに
 ついでに申すに、ついでに
 ついでに申すに、ついでに
 ついでに申すに、ついでに
 ついでに申すに、ついでに
 ついでに申すに、ついでに
 ついでに申すに、ついでに



ついでに申すに、ついでに
 ついでに申すに、ついでに
 ついでに申すに、ついでに
 ついでに申すに、ついでに
 ついでに申すに、ついでに
 ついでに申すに、ついでに
 ついでに申すに、ついでに
 ついでに申すに、ついでに

